

のどが渴いてたまりませんでした
 水にはあぶらのようなものが
 一面に浮いていました

どうしても水が欲しくて
 とうとうあぶらの浮いたまま飲みました

——— ある日の少女の手記から ———

長崎市平和公園内 平和の泉 石碑

8月は忘れがたい月です。が、どうでしょう？
 9月になればもう戦争や原爆のことは話題にも
 のぼりません。

井上光晴氏の小説『明日』には、8月8日の
 長崎の市井の人々が描かれています。戦時下と
 はいえ結婚式や出産を通して人が生きている姿
 があります。明日11時2分に何が起こるのか
 は誰も知りません。・・・

戦争はしてはいけません。あなたも時々このあ
 ぶらの浮いた水を飲まずにはいれなかった少女
 のことを思ってください。
 戦争はしてはいけないのです。

由仁町 本覚寺 高橋芳子